

# 高柳中だより

第8号 柏市立高柳中学校  
令和7年12月10日  
校長 植松 一 裕

学校経営スローガン  
「あたたかい言葉、そして気付き 考え 行動する高柳中」  
～あったかやなぎな学校を目指して～

## 【12月の高柳中】 『学校だより』では個人情報保護のため生徒の個人名は載せません

間もなく2学期が終わります。学校生活の大きな節目は年度替わりの時ですが、12月はゆく年と来る年の心の準備をする時に位置付けたいものです。今年度の始め、生徒には「気付き 考え 行動」を大切にしてほしいという話をしました。冬休みの間は各ご家庭でも大掃除をしたり、親戚とのお付き合いや新年の挨拶回りを行ったりなど中学生が大人に近づくための学びの場がたくさんあるのではないかと思います。中学生が大人に近づくために冬休みをどのように過ごすのか、ご家庭でも話し合ってみてください。

朝、8時前頃から正門前の横断歩道付近で生徒を迎えるようにしています。その時間帯は一年を通じて車の往来が多いのですが、12月に入り「急いでいるなあ」と思われる車が増えたように感じています。まさしく『師走』そのものです。一方、中学生は入試を控えた3年生を除き、定期テストが終わったので気持ちが緩みがちな時期に入りました。交通事故に限らず、様々な事件・事故に巻き込まれがちな季節ですので、生徒たちには十分気を付けさせたいところです。

3年生の進路関係ですが、私立高校の入試相談がそろそろ始まります。3年職員が中学校での生徒の様子を高校側にお伝えして可否の判断材料に加えてもらうものですが、根拠の多くは通知票の評価評定です。相談で○（マル）がいただければ入試もほぼ合格なのですが、稀に不合格者がでることがあります。それは相談に持って行った評価評定と入試当日の得点がかけ離れている場合です。担任から「相談結果は○でしたよ」というお話を受けた場合であっても、あまりにも話が違い過ぎる場合は不合格があり得るということです。入試相談に載せるということは、第2・第3志望であっても進学先候補に入っているということですから、過去問を研究して高校の期待に応える生徒であることを示す必要があります。また、千葉県公立高校は各校のHPに「令和8年度入試の入学選抜評価方法」を公開しています。3年生は確認済みだと思いますが、1・2年生も早い時期から興味のある高校の可否判定方法を確認し、「自分磨き」を始めるとよいでしょう。

### 12月の行事予定（過ぎたものも含む）

2日（火）	もみの木3校合同校外学習	22日（月）	給食終了
4日（木）	定期テスト 確認テスト ～5日	23日（火）	大掃除 2学期終業式
6日（土）	振興会本部役員会		会議日（放課後部活動なし）
7日（日）	高柳ふれあいの集い（会場校）	24日（水）	冬季休業 ～1月6日
15日（月）	会議日（放課後部活動なし）	27日（土）	学校閉庁日 ～1月4日
16日（火）	職員研修日（放課後部活動なし）		
17日（水）	委員会		
19日（金）	保護者会		

## 【1年生校外学習】

11月14日に1年生が上野方面へ校外学習に行ってきました。常磐線の一時運転見合わせの影響により電車内の混雑が酷く体調を崩した生徒も出ましたが、実行委員を始め各係の念入りな準備により、よい一日を作り上げることができました。各クラスの集合写真です。



## 【令和7年度の本校の全国学力・学習状況調査結果について】（3年生4月実施）

毎年、3年生対象に国語と数学に対する関心の度合いと学力状況、そして生活学習習慣に関する質問調査が行われています。今年は理科についても行われましたので、本校生徒の調査結果をお知らせします。●国語では言葉の特徴や使い方に関する事項において平均以上の力を示しましたが、自らの言葉で表現したり情報を分析して記述したりする短答式・記述式問題において、県や全国の平均を下回りました。基礎的な知識や情報選択能力は確保されているものの、思考力や表現力を要する記述活動のさらなる強化が課題です。●数学では図形問題において、角度を求める問題や、辺や角についての関係を見出す問題の正答率が高く定着が見られました。一方、説明や証明問題の無回答率が県や全国平均と比べて高く、無回答率が低かった問題においても数学的な説明が出来ていない解答が多く見られました。●理科では、選択式問題が県や全国に比べて正答率が上回っているのに対し、短答式・記述式問題においては大きく下回りました。「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのか？」など、身の回りの事象から生じた疑問などを解決するための「課題を設定すること」に難しさが見られました。また、気体の密度の大小関係を分析して解釈することにも課題がありました。●生活学習の調査項目では、学習習慣に対する意識や状況が全国や県に比べて低く、重点的な改善が求められます。生徒が自律的に学習を進める力は「伸びしろがある」とも考えられます。国語・数学ともに記述式の問題に対して最後まで書こうと努力する生徒の割合が、全国・県に比べて下回りましたので、最後まで粘り強く課題に取り組む力を育てる必要があることが明らかになりました。質問調査の結果全体を見ると、「ICTを活用した学習状況」が県平均並みの水準を保っているのに対し、「学習習慣」や「主体的な学習の調整」といった、生徒の主体的な学びを支える基本的な意識や習慣の定着に大きな課題があることがわかりました。